

水稲新品種「ツクシホマレ」について

西山 壽・*八木忠之・*新村善弘・*轟 篤・**小八重雅裕・**黒木雄幸・**本部裕朗・内山田博士
(九州農業試験場・*宮崎県総合農業試験場・**宮崎県農政水産部)

Hisashi NISHIYAMA, Tadayuki YAGI, Yoshihiro SHINMURA, Atsushi TODOROKI, Masahiro KOBAE,
Yukou KUROGI, Hiroaki HONBU and Hiroshi UCHIYAMADA: A New Rice Cultivar "Tsukushihomare"

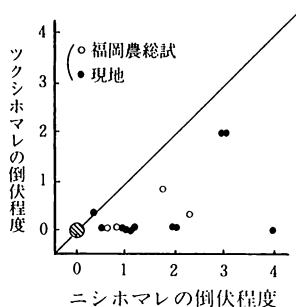
水稲新品種「ツクシホマレ (筑紫脊)」は1986年から福岡県において奨励品種に採用され普及に移された。ここに本品種の育成経過ならびに特性概要を報告し、普及の参考に供する。本品種の育成に関し、種々ご高配にあずかった各機関各位に深く謝意を表する。

1. 来歴および育成経過

本品種は、1974年に宮崎県総合農業試験場 (農林水産省指定水稲育種試験地) において、南海61号 (シンレイ) の白葉枯病抵抗性向上を目標として、南海61号を母、抵抗性の宮系 291-5 を父として人工交配を付け、1976年F₄で穂別系統として個体選抜を行い、以後系統育種法により育成されたものである。1983年F₁₁より南海91号の系統名で関係所に配布して地方的適否を検討してきたもので1986年6月、「水稲農林283号」として登録され、「ツクシホマレ」と命名された。

2. 特性の概要

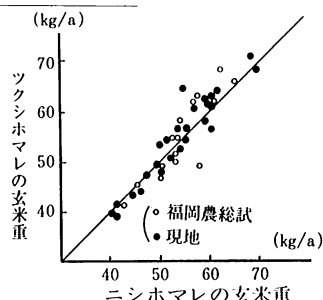
1) 形態的特性 ツクシホマレの稈長は、ニシホマレより約7cm短く、穂長はやや長く、穂数はかなり多い短稈穂数型である。葉身はやや細く、葉色中位で止葉は立つ。粒着密度はやや疎で短芒が少しあり、稈先色は黄白、



第1図 ツクシホマレとニシホマレの倒伏程度の比較
(福岡県、斜線は無倒伏31点)

脱粒性はやや難である。粒形・粒大は中、玄米品質はニシホマレに近い良質である。揚場歩留はニシホマレ並で、食味はニシホマレに勝り、刈遅れた場合も食味の低下が少ない。

2) 生態的特性 出穂期はニシホマレとほぼ同じであるが、成熟期は2日ほど遅く、中生の晩に属する梗種である。耐倒伏性はニシホマレより強く、収量性はニシホマレ並に高い(第1図、第2図)。いもち病抵抗性遺伝子型はPi-aと推定され、圃場抵抗性は、葉・穂ともニシホマレ並かやや強い中である。白葉枯病抵抗性は、黄玉群に属し、ニシホマレより強くニシヒカリ並のやや強である。



第2図 ツクシホマレとニシホマレの玄米重比較
(福岡県)

第1表 ツクシホマレの特性概要

品種名		ツクシホマレ	ニシホマレ	シンレイ
形質	早晩生型	中生の晩	中生の晩	中生の晩
	草型	穂数型	偏穂重型	偏穂数型
	出穂期(月・日)	8.31	8.31	8.30
	成熟期(月・日)	10.22	10.19	10.20
	稈長(cm)	75	82	70
	穂長(cm)	19.7	19.3	19.0
	穂数(本/m ²)	423	347	397
	芒の多少・長短	少・短	少・短	稀・短
	稈先色	黄白	黄白	黄白
	脱粒性	やや難	やや易	難
	耐倒伏性	強	やや強	強
耐病性	いもち	中	中	中
	穂いもち	中	中	中
	白葉枯病	やや強	やや弱	やや弱
	縞葉枯病	罹病性	罹病性	罹病性
	玄米重(kg/a)	54.2	52.5	51.8
	玄米千粒重(g)	22.7	23.5	22.6
	玄米品質	中上(4.5)	中上(3.8)	中上(4.3)
	食味	上下	中上	上下

注) 福岡県農業総合試験場における1983~'85年の標準栽培

3. 奨励品種採用理由

福岡県におけるニシホマレは、食味が十分でなく、特に作付が集中している地域では刈遅れによる食味の低下が、また平田肥沃地では倒伏が問題となっている。ツクシホマレは、成熟期が2~3日遅く、収量は同程度で、食味、耐倒伏性、白葉枯病抵抗性が勝るので、普及が見込まれる。

4. 栽培上の注意

穂数は確保しやすいので、過度の多肥栽培は過繁茂となり、登熟を低下させるのでさける。またいもち病抵抗性が、ニシホマレ並かやや強い程度の中位なので、適期防除に留意する。